

令和2年度 徳島県立脇町高等学校 学校評価 総括評価表

重点目標	課題	評価指標と活動計画	実施状況	評価	総合評価	学校関係者の意見	次年度への課題	
1 学校と家庭が連携を深め、主体的に学習する態度と確かな学力をもちた生徒を育成する。	(1) 指導方法の工夫・改善	評価指標	1 「授業力向上に、授業公開・参観授業を役立てることができた」教職員の肯定的評価90%以上	教員の肯定的評価は97.6%(-2.4)であり、今年度も高いレベルで目標を達成できた。	A	B	生徒一人一台端末の整備に基づくGIGAスクール構想が小・中学校で進められているが、脇町高校でも同様に取組は進んでいるのか。これからの時代はICTの活用が必要不可欠であり、教材・教具や学習ツールの一つとしてICTを積極的に活用し、協働的問題解決型授業の深化など、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組んでほしい。	○協働的問題解決学習は学校全体に定着している。今後は、コンピテンシーベースの授業を実践するためのカリキュラム・マネジメントのデザインを実践する。
			2 「指導方法や内容の精選、教材の共有などについて、教科内での連携を密に行っている」教職員の肯定的評価90%以上	教員の肯定的評価は97.6%(±0)であり、今年度も高いレベルで目標を達成できた。				
		活動計画	1 授業研究週間を年2回(各2週間)設けるとともに、協働的問題解決型の授業公開を全教職員が行う。	コロナ感染症対策のため授業の制約が多い中、ほぼすべての教職員が授業公開を行った。教員アンケートにおいて92.9%の教員が効果を実感している。				
			2 各教科で教科会や授業担当者打ち合わせを適宜開催し、学習指導方法の工夫や改善について検討する。	教育課程指定校事業(地理歴史科)での取組を筆頭に、各教科で授業進捗の確認や考査問題の吟味を通して、指導方法の工夫や改善を行った。				
	(2) 計画性や目的意識を持った学習習慣や態度の育成	評価指標	1 「主体的で計画的な学習ができています」生徒の肯定的評価70%以上	生徒の肯定的評価は69.2%であり、目標に少し届かなかった。	C	協働的問題解決学習をはじめ、教職員の授業改善に非常に高い。その一方で、生徒の主体的で計画的な取組は不十分であり、その意識付けが課題である。	○定期考査や実力テスト、模試を実施した際には必ず振り返りを行う必要がある。欠席者の追試や別日程等によって振り返りの時間が余り効果的にとれていないのかもしれない。	
			2 「定期テスト・実力テスト・校外模試に向けて計画的に学習している」生徒の肯定的評価75%以上	肯定的評価72.6%と目標に届かなかった。特に1・2年生の学習に対する意識の低さが目立った。(1年生68.4%、2年生69.4%、3年生79.7%)				
		活動計画	1 シラバスや手帳、面談、集会などを効果的に活用し、計画的な学習スタイルを確立させる。	各学年・教科での学習ガイダンスや、手帳を活用した学習スケジュール管理の指導、個別面談を実施して意識の高揚を図った。				
			2 考査や模試の予定を確認し、具体的な計画を立てるよう指導する	1・2年生の肯定的評価が低く、テストに対する意識が低いことがわかる。				
	(3) 家庭学習の充実	評価指標	1 全生徒の年間平均家庭学習時間2.8時間以上。1年生2.7時間以上、2年生2.8時間以上、3年生3.5時間以上。	家庭学習時間は、1年生2.46時間、2年生2.48時間、3年生3.68時間で目標を達成できたのは3年生だけだった。	B	新型コロナウイルス感染症が全国に広がり、感染防止対策が当たり前のものとなる中、様々な教育活動をどうすれば実施できるのか、その方策をできるだけ検討してほしい。3年進路保護者会もできれば開催してほしいという思いがある。コロナ禍でも何とか開催できないか、引き続き創意工夫をお願いしたい。	○年々家庭学習時間が減少する傾向にある。放課後、自習室で勉強している生徒が減少し、教室で誰かと雑談しながら勉強していることから、一人で集中して学習する習慣が薄れてきているのかもしれない。	
			2 家庭学習時間調査において、学習時間が1時間未満の生徒の割合を、4%以下にする。	第5回において家庭学習時間1時間未満の生徒は、1・2年生合計で2.0%であった。				
		活動計画	1 家庭学習時間調査を通して、家庭における学習状況を把握し、指導に活用することで学習習慣を確立させる。	家庭学習時間の不足を把握し、生徒への啓発をすることによって年平均では低かったが学年後半(1月)では向上がみられた。				
			2 学年集会等を利用して学習の意義や具体的な学習方法について指導し、家庭での学習習慣の必要性を理解させる。	進路保護者会や学年での集会が例年通りの開催はできなかったが、全体への啓発によって学習習慣の必要性を訴えることができた。				
	(4) 興味・関心を高める教育	評価指標	1 「生徒の興味関心を高める教材の研究や授業の工夫・改善を積極的に行った」教職員の肯定的評価90%以上 「興味・関心を持って授業に意欲的に取り組んだ」生徒の肯定的評価80%以上	教員の肯定的評価は100%(+4.9)であり、今年度も高いレベルで目標を達成できた。また、生徒の肯定的評価は79.9%(+0.5)とほぼ目標値を達成できた。	A	第Ⅲ期SSH事業の指定を受け、電子黒板等のICT機器も活用しつつ改めて教材研究や授業改善に取り組む、コロナ禍を乗り越えて多様な学びの場を提供してきた結果、生徒の評価も非常に高い。	○地方において科学技術人材を育成するため、ICTの活用など多様な学びを実践していく必要がある。今後も、新たなカリキュラムを開発する。	
			2 「SSH事業の各種活動に参加してよかった」生徒の肯定的評価80%以上	肯定的評価は83.1%で目標を上回った。				
		活動計画	1 文献や書物に接する機会を増やし、話題に富んだ授業を行うなど、生徒の興味・関心を高める工夫がなされた、わかりやすい授業を行う。	SW-ingや課題研究の活動を通して、生徒が文献や書物、公文書等に接する機会を積極的に設定した。それぞれの教員が工夫を重ねた授業実践を行った。				
			2 魅力あるSSH事業を展開し、知的好奇心を向上させる。	肯定的評価は81.8%で高い数値となった。				
	(5) 家庭との連携	評価指標	1 「PTA総会・学年進路保護者会の参加者数」保護者参加者数の割合50%以上	PTA総会は文書会議で議事の承認を得た。学年進路保護者会は、3学年中止(夏の三者面談の際に担任から資料を配布し個別に説明)、1・2学年は6月、11月にそれぞれ実施。(参加率…1学年:89.4%、2学年:67.0%)	B	PTA総会を文書会議にするなど、様々な工夫を凝らして、保護者との連携を図り情報提供する機会を設けてきたが、HPに対する満足度は十分とは言えず、保護者のニーズを捉えた改善・充実が必要である。	○次年度は、通常の形でPTA総会を実施したいと考えているが、感染状況を注視しながら、適切な方法(文書会議も含めて)を選択したい。 ○より見やすく情報が伝わりやすいホームページになるように、改善していく。 ○保護者の進路保護者会への関心は高いため、有効な情報発信ができるよう、各学年、進路指導課とさらに連携を進めていきたい。	
			2 「ホームページは、学校の活動状況などを理解するのに役立つ」保護者の肯定的評価70%以上	肯定的評価は66.0%(+1.8)と昨年度よりやや改善したが、目標は達成できなかった。				
		活動計画	1 PTA総会や学年進路保護者会への積極的な参加を促す。また、進路課と連携しながら、各学年の保護者に応じた情報提供ができるよう保護者会の内容等を充実させる。	制約の多い中での実施であったが、学校の取組や進路への関心は高く、進路保護者会については例年以上の参加があった。限られた時間の中で有意義な会にするため、伝達内容の精選や、配布資料の工夫などが各学年で行われた。				
			2 ホームページの更新を年間200回以上実施する。	ホームページの更新を、年200回以上実施できた。				

高い志を持ち、目標の実現に向けて努力し、将来、社会のリーダーとして活躍しうる生徒を育成する。	(1)	望ましい職業観・早期の進路意識の育成	評価指標	1	「小論文・講演会・SSHの諸活動などを脳高手帳に記録し、進路意識を高めるよう努力した」生徒の肯定的評価70%以上 「授業やホームルーム活動を通して、生徒の進路意識の向上に努めた」教員の肯定的評価90%以上	生徒の肯定的評価46%とかなり低い結果となった。今年度は多くの行事が中止になったため、活動記録はあまり残せていないようである。 進路意識の向上においては、教職員の肯定的評価は97.6%と達成できている。	B	B	全体的に、評価指標の数値目標が高い気がする。 学校の指導体制や相談体制は、現状でもしっかりしていると思われる。 教職員も生徒も自覚をもって様々なことに取り組んでいると言えるのではないか。 引き続き取組を進めていただき、なお一層A評価が増えることを期待している。	○新しい入試制度になったことがまだ生徒にはピンと来ていないようである。 ポートフォリオの重要性を1年生からもしっかりと理解してもらい必要がある。 ○多様な学問分野に触れる機会を設けるため、ICTを活用したカリキュラムを開発する。
			2	「SSH活動は大学進学後の志望分野探しに役立つ」生徒の肯定的評価70%以上	肯定的評価が79.8%で、目標を達成できた。					
		活動計画	1	小論文・探究活動・講演会・W-ing/SW-ingプランの活動に積極的かつ意欲的に取り組ませるとともに、進路を考える機会となるよう指導する。授業やホームルーム活動の中で、生徒の進路意識を向上させるよう働きかける。	3年生は大学受験、特に国立大学の推薦入試において在学中の活動を生かすことができた。総合型・学校推薦型入試において54名が合格。					
		2	SSH活動への参加を将来の志望分野探しに役立たせる。	ICTを活用したリモートの講演会など多様な経験を積ませることで、いろいろな学びの分野を提示できた。						
	(2)	個々の希望や適性に応じた多様な進路指導	評価指標	1	「先生は面談等を通じて、進路についてよく指導してくれる」生徒の肯定的評価85%以上 「教員は個人面談などを通して、個々の生徒に応じた丁寧な進路指導をしている」保護者の肯定的評価85%以上	生徒の肯定的評価87.7%と高く、保護者の評価も86.7%と目標は達成できた。各教員が親身になって生徒の相談に応じた結果、高評価が得られた。	B	B	SSHへの取組が志望分野探しに役立っているものの、「脳高手帳」を、様々な活動を通して得た様々な気づきなど、自らの成長を記録するポートフォリオとして活用しきれていない恐れがある。	○担任は、日常から個人面談を行っている。進路に不安を持つ生徒が多いにもかかわらず生徒・保護者ともに評価が高いのは面談週間にとらわれない生徒への指導のたまものと思われる。このまま継続したい。 ○『道標』に関しては進路資料として役に立つと評価される一方、個人成績がわかるのではとの指摘もあった。今後掲載に関しては細心の注意を払いたい。
			2	「『道標』をはじめとする各種の進路情報は充実している」生徒・保護者の肯定的評価80%以上	保護者の評価は88.2%と高かったが、生徒の評価は74.7%と目標に届かなかった。					
		活動計画	1	定期的な個別面談や三者面談を実施するなど、きめ細やかな進路指導を行う。	個別面談や三者面談の週間以外でも、随時行った結果生徒・保護者ともに高評価が出ている。（肯定的評価87.8%）					
		2	高大接続改革の情報を含め、必要な進路情報を生徒・保護者に分かりやすく提供するとともに、『道標』の内容を充実させる。	1・2年生では進路保護者会に多くの保護者が出席していただき、進路情報の提供を行うことができた。						
	(3)	生徒保護者が希望する進路目標の達成	評価指標	1	生徒・保護者から希望の高い国立大学への合格者数が、在籍生徒数の50%以上	国立大学合格者数、3月23日現在104名が合格している。前期試験終了段階で在籍188名中55.1%を達成した。	B	B	本校のきめ細やかな進路指導に対する評価は、生徒・保護者ともに高いと言える。	○新しい入試制度が始まり、問題傾向の変化や難易度の変化が心配されたが、校内での指導がうまく生かされ大きな動揺はなかった。ただ、予想より平均点が高かったため、次年度への影響が心配される。 ○顧問はよく配慮している。今後さらに生徒、保護者に向けて両立の重要性や価値を学校全体で発信していくことが必要である。
			2	「部活動顧問は、生徒の学習状況を考慮してバランスのとれた活動時間を設定している」生徒・保護者の肯定的評価80%以上	肯定的評価は生徒82.4%、保護者77.8%であった。					
		活動計画	1	日常の取り組みを学習成績に反映させ、丁寧な進路指導を行うことで個々の進路実現に結びつける。	国立大学だけに限らず、個々の進路実現に向けて二次対策授業や個別指導を充実させ、私立大学においても多くの合格者(延べ224名)を出すことができた。					
		2	学習と課外活動とのバランスを取りながら、生徒の自己実現に向けた指導を行う。	顧問はよく配慮している。今後さらに生徒、保護者に向けて両立の重要性や価値を学校全体で発信していくことが必要である。						
	(4)	将来、社会において活躍しうる脳高生の育成	評価指標	1	「学校祭や球技大会などの学校行事は、生徒会が中心となり活発に活動できている」生徒の肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価は89.7%であった。	A	A	生徒会が中心となって様々な創意工夫でコロナ禍を乗り越え、可能な限り様々な学校行事を実施することができた。 朝のあいさつ運動等も感染防止対策を講じた上で実施することができた。	○コロナ禍でも、生徒会や脳高祭実行委員会等を中心とした状況にも合わせて工夫する活動ができた。次年度もこの経験を生かしさらにブラッシュアップさせたい。 ○服装やあいさつについての指導は、全職員が一丸となって実施できている。生徒の意識も高いので、次年度も継続して取り組みたい。あいさつ運動は校地内での取り組みを生徒会に任せ、職員は校外での指導に専念できた。継続して取り組みたい。
			2	「服装・言葉遣い・時間厳守を心がけた生活をしている」生徒の肯定的評価90%以上	生徒の肯定的評価は91.2%で目標値を上回った。					
		活動計画	1	学校祭や球技大会などの学校行事を、生徒会主体で積極的に運営し、協働意識を高め、社会性を育てる。	コロナ禍で、例年の内容等を大幅に変更せざるを得ない状況であったが、生徒会や脳高祭実行委員会等を中心とした状況にも合わせて工夫する活動ができた。					
		2	身だしなみについて各クラス・各学年・学校全体で継続的な指導を行う。また、朝のあいさつ運動を毎月実施する。	毎週の初めに職員朝礼で全職員に呼びかけ、朝のHRで生徒への周知徹底を図った。生徒会協力の下、あいさつ運動が実行でき、生徒の意識が向上した。						
	(5)	将来、社会に貢献しようとする人材の育成	評価指標	1	「ISO清掃活動等、各種ボランティア活動に積極的に参加している」生徒の肯定的評価50%以上	生徒の肯定的評価は60.3%で、昨年度の49.2%を大きく上回った。	B	B	地域への奉仕活動をはじめ、各種探究活動でも、各種団体との連携を深めて様々な地域課題に取り組むなど、社会貢献に協働的に取り組むことができた。	○高校生としての成長や進路実現に向けて、ボランティア活動等の社会貢献の意識が高まっている。特にJRC部はマスク回収や募金活動等全校生徒を巻き込むような活動を多数実施した。今後も全校生徒が参加の意識を持てるような広報や啓発を行っていかねばならない。 ○地方自治体などの多様な主体と連携し、協働的な課題研究を実践する。
			2	「社会の課題解決に関する探究活動に積極的に取り組み、社会への関心が高まった」生徒の割合80%以上	肯定的評価は71.4%で、目標を達成することができなかった。学年別では、1年生68.6%、2年生66.7%、3年生78.0%であった。					
		活動計画	1	ボランティア活動への積極的な参加を呼びかけ、社会貢献への意識を高める。	各クラスに掲示等で啓発に努めた。JRC部も全校生徒が参加できるような活動を考え、積極的に実施した。					
		2	探究活動や成果の報告会などを通して生徒間の経験や知見を共有させ、社会への関心を高める。	進路などで主体的に社会とのつながりを考える3年生の数値が高かったと考える。より主体的な探究活動を実践することで、社会への関心を高める必要がある。						
	(6)	グローバル化に対応できる人材の育成	評価指標	1	「GTECや英検の受検、ALTとの授業に主体的に取り組んだ」生徒の肯定的評価60%以上	生徒の肯定的評価60.9%(+0.9)と目標値を上回り、英語外部検定試験への積極的な姿勢が見られた。	A	A	英語4技能のバランスのとれた育成を目指して、GTECや英検といった外部試験の受検を奨励するとともに指導に努め、成果をあげている。	○共通テストでは、リーディング60.8点(+9.4)、リスニング60.6点(+9.28)と全国平均(リーディング51.4点・リスニング51.32点)を上回った。これは新入試に向け、英語4技能のバランスのとれた育成を目指してきた成果だと考えられる。今後も、読解力やリスニング力、語彙力の強化に向け、多読・精読・英作文に加え、リスニングやスピーキングにもさらに重点を置き、バランスの取れた指導を実践する。 ○国際問題に関心が持てる授業内容を実施する。時事英語に触れる機会を増やし、リスニングや読解にその知識を活用する。
			2	「国際社会の様々な問題に興味・関心を持ち、書籍・インターネット等を利用して調べている」生徒の割合が50%以上	生徒の肯定的評価52.7%(+2.7%)と目標値を上回り、国際社会への興味・関心を示し、書籍やインターネット等を利用している。					
		活動計画	1	生徒の英語学習への意欲を高め、GTECや英検の受検をすすめる。国際理解教育の充実をはかり、コミュニケーション能力向上のためにリスニングやスピーキングテストを取り入れる。	GTEC受検率は1年生99.4%、2年生97.7%、英検受検率は学校全体(準2級・2級・準1級の年間合算)で38.1%だった。英語外部検定試験を利用する入試も増加しており、今後もより積極的な受検を促す。リスニングテストは全てのテストにおいて実施し、スピーキングテストも1・2年生とも年1回以上実施できた。					
		2	書籍・インターネット等を活用し、異文化に関する知識と正しい認識を持たせるとともに、グローバル化に柔軟に対応できる能力を育成する。	プレゼンテーションやディスカッションの事前学習として、インターネットや書籍を活用できた。またスピーチコンテストや国際教育弁論大会等、外国語によるコンテストや大会にも書籍等を活用し、自ら進んで参加する生徒が増えた。						

【備考】「評価」及び「総合評価」の評定の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった

3	自己有用感や自己肯定感を育み、仲間と協働できる豊かな心をもち、公共心を備えた、たくましい生徒を育成する。	(1)	環境美化・防災に対する意識の向上	評価指標	1	「清掃活動に積極的に取り組んでいる」生徒の肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価86.9%(+4.2)と目標数値を上回った。	B	B (所見) 評価指標について、14項目中達成できたのは9項目、部分的に達成できたのは2項目、達成できなかったのは3項目であった。	交通事故が減少したということだが、その要因をどのように分析しているか。  修学旅行を中止し代替遠足を実施したということだが、どのようなものだったのか。 恐らく来年度も、引き続き新型コロナウイルス感染症対策が必要であり、コロナ禍の影響を抜きにした目標設定は難しいと思われる。 回数のような数値目標の設定では、臨時休業となった場合、今年度同様達成困難になる。コロナ禍に対応した評価指標の設定が必要だと思われる。	○防災については、文化祭等で寝袋体験や非常食の試食等を通して意識付けを高く工夫したつもりではあるが、まだ浸透するには至っていない。今後起こるであろう大地震についても考えさせ、文化祭だけでなく、あらゆる機会を捉えて意識付けさせることが必要である。 ○防災士（スペシャリストティーチャー）が高校生防災士や防災クラブを活用し防災訓練をスムーズに行えるように避難誘導する必要がある。
				2	「防災訓練に、関心を持って積極的に参加している」生徒の肯定的評価75%以上	防災訓練について関心を持っている生徒は73.4% (+1.2) と昨年よりも意識は上がっている。					
			活動計画	1	快適な環境で学習できるよう、清掃活動やゴミの分別に積極的に取り組ませる。	ゴミの分別は十分できている。教室に電子黒板等精密機器が設置されているので環境整備に努めている。校舎内に付着しているクモの巣等も除去している。					
				2	高校生防災士を活用して、参加体験型訓練など体験を重視した活動を取り入れ、防災に対する関心を高め、家庭でも学校でも積極的に行動できるよう指導する。	防災訓練を参加体験型として実施している。今年度はコロナ禍の中、避難訓練で避難経路の確認や防災に対する意識の向上に努めた。防災訓練では防災クラブ員がリーダーとなって消火訓練等を行った。					
		(2)	集団や社会の一員として協力	評価指標	1	「ホームルーム活動や部活動を通して、好ましい人間関係ができています」生徒の肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価は91.3%であった。	A	A 防災に関する意識については、昨年度よりは改善したが、目標値には至らなかった。避難訓練の在り方についても、工夫の余地があると思われる。	○協働的な雰囲気の中でホームルーム活動や部活動が行われている。集団への帰属意識を高め、さらにその中で自分の果たせる役割を常に考えさせる活動を進めていきたい。 ○本校の諸活動で取り入れられている他者と協働して問題解決を模索する活動そのものが、政治的教養につながる点を職員間で共通認識として共有し、各取組を一層積極的に推進していく必要がある。	
				2	「授業や小論文・社会の課題に関する探究活動・講演会などを通じ、社会的問題を主体的に考える意識が高まった」生徒の肯定的評価75%以上	生徒の肯定的評価は78.5%(-2.0)で昨年度には及ばなかったが、目標を達成できた。					
			活動計画	1	ホームルーム活動や部活動を通して、集団の中での役割や立場を理解し、仲間と協力して目標に向かって努力できる生徒を育成する。	コロナ禍で制限のある中でも、協働的にホームルーム活動を進めたり、部活動でも積極的に活動に取り組ませるたりすることが自分の役割を意識するきっかけ作りになったと考えられる。					
				2	主権者教育年間計画表に従い、主権者意識を高めるための授業、ホームルーム活動、総合的な学習の時間、学校行事を実施する。	コロナ禍で模擬投票は実施できなかったが、1年生の現代社会の授業や3年生の年金講座を通して、社会の一員としての自覚や主権者意識を高める取組を行った。					
		(3)	基本的な生活習慣の育成、安全教育の推進	評価指標	1	「交通安全・交通マナーについて、日ごろから十分意識し、守っている」生徒の肯定的評価90%以上 交通事故等を昨年度より減少させる。	生徒の肯定的評価は93.2%で目標値を上回った。交通事故も昨年度と比較して減少しており、成果をあげた。	B	B 交通安全・交通マナーに対する生徒の意識は非常に高く、交通事故の発生件数も減少している。  携帯電話やスマートフォンについては、利用時間や利用方法について引き続き生徒の自覚を促すとともに、保護者の理解と協力を求める必要がある。	○朝のHRや集会などを通して交通安全や交通マナーについて周知を徹底したことで、生徒の意識が高まった。交通事故件数の減少という成果も出ているので、次年度も啓発に力を入れていきたい。 ○携帯電話やスマートフォンをルールやマナーを意識しているという生徒の割合は高い。しかし、依然としてSNSでのトラブルなどが発生しており、使用に関しては注意喚起を行っていく必要がある。利用時間が長くなることがトラブルの原因になっていく面もあると思うので、保護者への呼びかけを行い、ルール作り等で協力が得られるように啓発していきたい。	
					2	「携帯電話やスマートフォンは利用時間を意識している」生徒および保護者の肯定的評価80%以上 「携帯電話やスマートフォンはルール・マナーを意識して使用している」生徒および保護者の肯定的評価80%以上	「携帯電話やスマートフォンは利用時間を意識している」生徒の肯定的評価は71.3%であり、「携帯電話やスマートフォンはルール・マナーを意識して使用している」生徒の肯定的評価は90.1%であった。利用時間に関して目標値を下回った。				
				活動計画	1	バイクの安全運転実技講習会を開き、車体検査を行う。また、登校指導を毎月行うなど、交通安全教育を徹底する。	毎週の初めに職員朝礼で全職員に呼びかけ、朝のHRで生徒への周知徹底を図った。 バイクの安全運転実技講習会や車体検査を実施し、交通安全教育を徹底した。交通事故件数は昨年度16件から8件と半減しており、成果をあげた。				
					2	個人面談や家庭及び関係機関との連携を行い、情報モラルを身につけさせるとともに、携帯電話やスマートフォンの利用時間やルール・マナーを意識して使用させる。	毎週の初めに職員朝礼で全職員に呼びかけ、朝のHRで生徒への周知徹底を図った。 携帯電話やスマートフォンのルール・マナーに関しては家庭の協力もあり、成果をあげた。				
		(4)	保健指導の充実	評価指標	1	「保健だよりの発行」年間10回以上	休校期間があったため「保健だよりの発行」は7回であった。新型コロナウイルス感染症対応に関するお知らせは配布し、その他は教室掲示とホームページ掲載をした。	B	B 悩みや不安を抱えた生徒への対応についても、スクールカウンセラーによるカウンセリングを定期的に実施しており、関係機関とも連携して対応することができており、生徒・保護者の満足度も高い。	○生徒の学校生活をよく観察し、保健だよりと保健指導の内容のさらなる充実を努めたい。 ○緊急時に全員が適切な措置を行えるよう、救急法の講習は必要であるため、例年の年度当初より遅い時期で計画予定である。	
					2	「緊急時に救急措置(AEDを含む)をすることができる」教職員100%	教職員の肯定的評価は95.2%であった。今年度は教職員対象救急法講習会ができていないため、対応に自信のない職員がいると思われる。				
				活動計画	1	時節や生徒の生活状況に応じて保健だよりを定期的・臨時的に発行するなど、効果的な保健指導を行う。	生徒保健委員が新型コロナウイルス対策ポスターを作成するなどし、手洗いやアルコール消毒も学校生活にきちんと取り込まれている。				
					2	教職員に加え部活動生徒への救急法講習会を実施するなど、校内救急体制の充実を努める。教職員対象救急法講習会(年1回実施)	新型コロナウイルス感染症対応で、実習を伴う行事ができなかったが、集会や行事等多くの場面で感染症予防対策がとられ、生徒が考える機会となった。				
		(5)	教育相談及び特別支援教育の充実	評価指標	1	「悩みや不安を親身に聞いてくれる先生や友だちがいる」生徒の肯定的評価85%以上 「先生は保護者や子どもの相談に誠実に対応してくれている」保護者肯定的評価85%以上 「生徒や保護者の相談に、誠実に対応できている」教職員の肯定的評価90%以上	「悩みや不安を親身に聞いてくれる先生がいる」生徒の肯定的評価88.8% 「先生は保護者や子どもの相談に誠実に対応してくれている」保護者の肯定的評価87.8% 「自己理解調査や職員研修を生かし、学級や部活動などで生徒の居場所作りを努めることができた」教員の肯定的評価は100%であった。生徒、保護者、教員すべての評価において目標を達成することができた。	A	A 人権問題ホームルーム活動に対する評価は、生徒・教職員ともに非常に高く、家庭での話し合いについても目標値を上回っており、引き続き取組を進めていきたい。	○生徒や保護者の肯定的評価を過信すること無く、担任・学年・部活動顧問等で連携しながら生徒の悩み迅速に対応していきたい。 ○スクールカウンセリングを希望する生徒や保護者は多く、悩みや不安を抱えている生徒の要因や環境整備などの配慮が必要である。 ○不登校になるまでには、生徒は非常に悩んでいる。そのサインを多くの教員が見逃さず、複数の教員で協力しながら、また必要に応じて関係機関とも連携しながら対応していく。	
					2	「生徒が安心して過ごせる教室や部活動の環境整備や授業づくりに努め、組織として迅速かつ臨機応変に対応できる」教職員の肯定的評価90%以上	「生徒が安心して過ごせる教室や部活動の環境整備や授業づくりの工夫ができた。」教職員の肯定的評価97.6%で目標を達成することができた。				
				活動計画	1	悩みや不安など、様々な困り感を抱えていながらも言い出せない生徒がいることを常に意識し、生徒が相談しやすい環境づくりと誠実な対応に努める。	人権教育課と連携し、特別支援教育についての職員研修を実施した。配慮を要する生徒が増えてくるなか、合理的配慮について具体的に学ぶことができる機会となった。				
					2	担任をはじめ教科担任や部活動顧問、関係機関とも連携し、生徒が安心して学校生活を送れるよう工夫し、組織として、迅速かつ臨機応変な対応に努める。	不登校や悩みのある生徒について、保護者と連携して、徳島県精神保健福祉センターの思春期外来やスクールカウンセラーの利用をすすめるなど、関係機関とも連携できた。				
(6)	人権教育の推進	評価指標	1	「人権問題について学んだことを、日常生活に活かそうとしている」生徒の肯定的評価80%以上 「子どもが学校で人権問題について学んだことを、家庭で話し合う機会がある」保護者の肯定的評価40%以上	生徒の肯定的評価は83.8%で、目標を達成することができた。また、保護者の肯定的評価も43.3%で目標を達成することができた。	A	A 人権問題ホームルーム活動に対する評価は、生徒・教職員ともに非常に高く、家庭での話し合いについても目標値を上回っており、引き続き取組を進めていきたい。	○生徒が人権問題についての学びを、日々の生活に反映させられるよう、生徒の身近な内容を取り上げたり、家庭との連携をより一層図る等の工夫をしたい。  ○「人権の日だから語る会」参加者数を増やすために、広報活動に努め、気楽に参加できる雰囲気作りを促す。  ○人権学習ホームルーム活動については、さらに多くの教員が指導に関われるように工夫していく。			
			2	「人権学習ホームルーム活動は充実している」生徒の肯定的評価85%以上 「すべての教育活動の中で、人権に配慮した指導ができている」教職員の肯定的評価90%以上	感染予防のために話し合い活動は制限されたが、動画を利用するなど教材を工夫した結果、生徒の肯定的評価は87.7%で目標を達成することができた。教職員の肯定的評価は100%と高い評価となった。						
		活動計画	1	人権問題をより身近なものとして捉え、実践的態度につなげるために、人権委員が主体となり「協同人権の日」のテーマ設定や資料づくりを行う。また、その日のテーマを家庭でも共有し、広がりある人権教育に結びつける。	「協同人権の日」のテーマ設定や資料づくりを1・2年生の人権委員が1～3クラスずつで担当した。高校生の視点を取り入れたテーマで、主体的に資料作成に取り組む姿勢が見られた。ただ、「人権の日だから語る会」への人権委員・人権「いのち」の会生徒以外の参加者はいなかった。						
			2	生徒の実態に合わせてホームルーム活動で扱うテーマを再構成するとともに、各学年で指導案や資料を十分に検討し、生徒の主体的な活動を積極的に取り入れる。また、多くの教員が指導に関われるように工夫する。これらの活動を柱に、すべての教育活動の中で人権に配慮した指導の実現を図る。	全15クラス中12クラスで副担任の先生がホームルーム活動を行う機会を持つなど、多くの教員が指導に関わることができた。ただし、例年行ってきた学年一斉ホームルーム活動は、感染予防のために実施しなかった。						
(7)	感性豊かで、調和のとれた人間性の育成	評価指標	1	「学校行事・修学旅行・文化祭等の学校行事を通して、芸術や文化活動に積極的に取り組んだ」生徒の肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価は88.6%であった。	B	B コロナ禍により、修学旅行は2回の見直しを経て、代替遠足になり、脇高祭は完全非公開で、ミライ文化祭は校内での開催となったが、様々な工夫をすることにより実施に努め、芸術や文化に触れる機会を提供することができた。	○修学旅行は中止になったが、その他芸術文化系の行事は制限のある中でも工夫して実施している。そのような生徒自身の取り組みが、肯定的評価に繋がったのではないかと考えられる。今後もどのような状況でも生徒に考えさせ工夫させる取り組みを継続して実施していきたい。 ○コロナ禍により新入生に対する図書館オリエンテーションを実施できず、1年生の図書館利用者が減少した。自発的に読書に向かう生徒が増えるよう、適切な時期に利用を促す工夫を実施したい。			
			2	「普段から読書に親しんだり、朝のコラムや新聞を読むように心がけている」生徒の肯定的評価60%以上 図書館の貸し出し数・入館者数の増加	生徒の肯定的評価は60.9%であった。 コロナ禍による休校もあり、貸出数や入館者数は減少した。						
		活動計画	1	学校行事・修学旅行・文化祭等の活動の中で芸術や文化に触れる機会を設け、芸術・文化について理解を深めるとともに、豊かな情操を養う。	修学旅行は中止となったが、文化祭での積極的参加や文化部への入部等、芸術や文化に触れる機会を生徒たちは自主的に得ようとしていた。						
			2	読書推進週間を設け、図書館だよりの充実やコラムの継続及び読書の推進を図る。	コラムの継続、図書館だよりによる読書の推進は継続して行えた。						

【備考】「評価」及び「総合評価」の評定の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった

4	働き方改革 に取り組 み、教職員 のワークラ イフパラン スを推進す る。	(1)	業務改善と 意識改革	評価 指標	1	「業務の効率化や会議の縮減等の業務改善に取り組んでいる」教職員の肯定的評価80%以上。	「業務の効率化や会議の縮減等の業務改善に取り組んでいる」教職員の肯定的評価は81.0%で、目標を達成することができた。	B	B	新型コロナウイルス感染症対策で、業務が増えたのではないかと心配である。引き続き取組を進めていただきたい。	○「行事計画書」等をもとに各分掌間で連携して行事の精選や見直しを検討するとともに、各分掌内でも、課員個々が抱えている業務量を勘案して業務分担を見直すなど、業務の平準化に努める。 ○コロナ禍に対応した活動自粛の経験をもとに、週末の部活動等についても計画的に時間短縮に引き続き努める。
					2	時間外勤務時間が、年平均で月4.5時間以内。	時間外勤務時間の年平均時間は月2.9時間を下回っており、目標を達成することができた。				
				活動 計画	1	日常業務の見える化、効率化を図るとともに、会議の精選や会議時間の短縮を推進する。	行事計画書の立案・配布を徹底することで、各分掌が所管する諸行事の見える化を推進するとともに、支障のない範囲で会議資料を事前配付するなどして、会議時間の短縮に努めた。				
					2	勤務時間を意識した働き方を推進するとともに、週末の部活動等についても計画的に時間短縮に努める。	緊急事態宣言下での臨時休業に伴う部活動の中止や各種大会そのものの中止等があり、部活動については年間を通してやむをえず時間短縮となった。				